

第1部 | 空き家の実情分析

空き家研究の現在

Research Map on AKIYA Studies

首都大学東京饗庭研究室 Shin AIBA Lab. Tokyo Metropolitan University

空き家をめぐる議論の系譜と、研究の系譜をまとめた二つの年表から、その潮流を読み取ってみる。

年表1では、空き家をめぐる記事や特集がどのように出てきたのか、三つの系統の八つの雑誌のバックナンバーをレビューした。建築系では「空き家」という単語が表面に出て来るのは2006年以降のことであり、ここ数年はリノベーションの手法と共に話題となることが増えている。住まい系ではリノベーションが比較的早くから注目されているが、「空き家」という言葉はほとんど登場しない。趣味生活系では、整理整頓やDIYによるリフォームの記事や「田舎の家を安く買って修繕して住もう」という記事が継続的に掲載されており、2012年に空き家バ

ンクが特集されている。雑誌全体で共通して、「空き家」が対象化されたのはここ数年のことであることがわかる。

年表1には、空き家論に関連する書籍の動向もまとめた。時間と建築、時間と都市は1970年代ごろから建築や都市についての議論の主題のひとつであった。しかし、日本の都市はこのころはスクラップ&ビルドが主流であったので、これらの議論が実感をもって受け止められることは少なかったのだろう。廃墟論やトマンソンなど、このころの議論は、主流に対するカウンターカルチャー、サブカルチャー的である。しかし、2000年ごろを境にして、具体的な再生の手法が出版されるようになり、2010年代に増える。ここから先こうした実践的な議論と、

年表2では、以下の方法で各学会から発表されている各論文を検索した。

日本建築学会大会梗概集：日本建築学会データベースにおいて、分類名「大会梗概集」、論文名「空き家 空家」(OR検索)により検索。日本建築学会計画系論文集：日本建築学会データベースにおいて、分類名「計画系論文集」、論文名「空き家 空家」(OR検索)により検索。日本建築学会技術報告集：日本建築学会データベースにおいて、分類名「技術報告集」、論文名「空き家 空家」(OR検索)により検索。ただし、本文中において空き家についての研究がされていないものは除外した。日本都市計画学会都市計画論文集：Ciniiにおいてキーワード「都市計画論文集 空き家」および「都市計画論文集 空家」で検索。都市住宅学会：J-STAGEにおいてキーワード「都市住宅学 空き家」および「都市住宅学 空家学会誌」で検索。ただし、検索結果のうち、論説は除いた。日本不動産学会：J-STAGEにおいてキーワード「不動産学会誌 空き家」および「不動産学会誌 空家」で検索。ただし、検索結果のうち、論説は除いた。住宅総合研究財団 研究論文集：住総研HPにおいてキーワード「空き家」および「空家」で検索。また、Ciniiにおいてキーワード「住総研 空き家」および「住総研 空家」で検索。いずれの学会においても、空き家が主題として研究されていないものは除外した。

2000年以前の時間と建築・都市についての議論を対照させることにより、空き家を中心とした都市・建築の理論が深みを増していくのではないだろうか。

なぜ、2000年代まで空き家は議論の対象にならなかったのか。空き家は都市の空間が遷移する過程のひとつでしかなく、意識的な議論や研究の対象ではなかった。人口が減り始めて都市空間の利用の密度が低くなり、「空き状態」である時間が長くなる。それに対するなんらかの計画的な介入が必要である、ということが問題意識となり、徐々に「空き家研究」の流れが生まれってきた。年表2を見ると、その流れが2004年ごろから確かなものになったことがわかる。

研究の中味を見ると、「空き家・空地数・空き家率」「空き家・空地の分布」といった、全体像の把握が進んだことがわかる。年表には対象地の別を記号で示したが、郊外や地方都市中心市街

地が目立つものの、全体としてさまざまな地域の全体像が明らかになりつつある。

一方で、空き家が直接的な引き金になって引き起こされる問題の定義と、実態把握はあまり進んでいない。存在するだけで問題を引き起こしている空き家がそれほどあるわけではない。治安が悪くなる、防災上危険である……といった問題が指摘されることもあるが、年表2を見ると、室内外の環境や景観についての研究が行われている程度である。これらなんらかの問題が顕在化するかもしれないが、現時点では建築学のなかで空き家が引き起こす問題は定義されていない。

かわって多いのは、空き家をめぐる政策や具体的なプロジェクトの研究である。すなわち、空き家は「問題」として都市に集積しているのではなく、「可能性」として都市に集積している、ということなのではないだろうか。

1970	1980	1990	2000	2005	2010	2015
建築系雑誌 1 住宅特集 建築家の設計した最新の住宅作品を写真と図面で紹介する雑誌 1925- 4 日経アーキテクチャ 造匠・構造・施工などの専門領域に加え、建築界を取り巻く社会・経済動向や経営業務などの情報を提供する雑誌 1976-	1 LIVES デザイン住宅、デザイナーズ・マンション、リフォーム&リノベーションなど、個性的な住宅を手に入れるための情報誌 2001- 5 住まいの設計 自分らしい「住まい」と暮らしを手に入れるための住宅誌 1960-	1 長部屋のフロアリング に交える法 (1998.08) 2 ベランダ大改造で実現させる 快適オープンリビング (2000.08) 3 DIYで換気扇の壁を抜いて ふた間続きにする (1999.08) 4 工場の生活 (2001.12)	1 長部屋のフロアリング に交える法 (1998.08) 2 ベランダ大改造で実現させる 快適オープンリビング (2000.08) 3 DIYで換気扇の壁を抜いて ふた間続きにする (1999.08) 4 工場の生活 (2001.12)	1 洗面所 すっきり保つ システムづくり (2006.02) 2 機能的で居心地よいリビング、 ダイニング (2006.08) 3 各地でDIYが手作りの 古民家カフェ (2007.04)	1 ケーススタディ・シティ 「空き家」 (2006.10) 2 Next Reform & Renovation (2006.12-2007.01) 3 リフォームでよみがえる家 (2007.11) 4 そうだ、実家があるじゃない 実家リフォーム大作戦!! (2009.01)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)
住まい系雑誌 1 LIVES デザイン住宅、デザイナーズ・マンション、リフォーム&リノベーションなど、個性的な住宅を手に入れるための情報誌 2001- 5 住まいの設計 自分らしい「住まい」と暮らしを手に入れるための住宅誌 1960-	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)
趣味生活系雑誌 1 ドゥーバ! ガーデニング、バーベキュー、部屋づくりなど多岐にわたる本格的DIYの男性向け情報誌 1997- 2 田舎暮らしの本 廃家情熱や楽園のつくり方などの実用知識から田舎での新しい生き方まで、田舎暮らしに関する情報を幅広く掲載する雑誌 1987- 3 暮らしの手帖 日々の生活を美しく、豊かにするための「暮らし提案誌」1948- 4 暮らしの友 衣・食・住・家計の生活技術を紹介、また子どもの教育、世界の動き、環境問題なども扱う雑誌 1904- 5 暮らしの友 衣・食・住・家計の生活技術を紹介、また子どもの教育、世界の動き、環境問題なども扱う雑誌 1904- 6 暮らしの手帖 日々の生活を美しく、豊かにするための「暮らし提案誌」1948- 7 暮らしの友 衣・食・住・家計の生活技術を紹介、また子どもの教育、世界の動き、環境問題なども扱う雑誌 1904-	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)	1 暮らし時代の提案 (2013.09.25) 2 リノベーション成長期の作法 (2014.12.10) 3 作家の地域再生 (2015.02.09) 4 成熟日本の「脱・内向き」 (2014.09.25)
書籍 1 時間の都市 ケヴン・リンチ 鹿島研究所出版会 1974 2 都市計画家リンチは 現代の都市における 時間についての議論 を展開した。この書では 人間の時間感覚と 物理的な時間の関係 を探り、いさいさと している。その後リンチ はその影に商業 を絡めていくことになる。 3 空家の思想 大谷幸夫 北斗出版 1979.10 4 空家のくち という言葉が日本の都市論 の中で意識的に使われ た初めの書である。こ ろ、意識して空家を 捉える書の意義を述べ たものであるが、否 応に空地や空き家 が増えている現在の 都市を見て筆者は何 を考へるだろうか。 5 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 6 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 7 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 8 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 9 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 10 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 11 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 12 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 13 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 14 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 15 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 16 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 17 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 18 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 19 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 20 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 21 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 22 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 23 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 24 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 25 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 26 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 27 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 28 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 29 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 30 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 31 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 32 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 33 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 34 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 35 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 36 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 37 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 38 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 39 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 40 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 41 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 42 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 43 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 44 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 45 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 46 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 47 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 48 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 49 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 50 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 51 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 52 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 53 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 54 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 55 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 56 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 57 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 58 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 59 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 60 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 61 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 62 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 63 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 64 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 65 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 66 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 67 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 68 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 69 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 70 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 71 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 72 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 73 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 74 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 75 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 76 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 77 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 78 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 79 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 80 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 81 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 82 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 83 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 84 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 85 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 86 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 87 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 88 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 89 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 90 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 91 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 92 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 93 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 94 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 95 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 96 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 97 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 98 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 99 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 100 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 101 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 102 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 103 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 104 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 105 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 106 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 107 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 108 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 109 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 110 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 111 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 112 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 113 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 114 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 115 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 116 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 117 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 118 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 119 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 120 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 121 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 122 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 123 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 124 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 125 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 126 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 127 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 128 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 129 空家のくち という言葉が日本の都市論の中で意識的に使われた初めの書である。ころ、意識して空家を捉える書の意義を述べたものであるが、否応に空地や空き家が増えている現在の都市を見て筆者は何を考へるだろうか。 130 建築の黙示録 宮本篤司 平凡社 1988.09 131 廃墟を撮影した写真集に磯崎新による「廃墟論」を収録。廃墟のイメージをはじめと終わりにおいた設計論は、明るく未来だけを見たいバブル経済期の設計論を反映することにつながった。空き家も一種の廃墟であるが、廃墟論にどのように接続が可能であろうか？ 132 超芸術トマンソン 赤瀬川原平 筑摩書房 1987.12 133 不動産に付着して残っている無用の長物を「トマンソン」と呼び、それを収集・収録したもののトマンソンこそ、時間とともに変化していく都市の痕跡であり、それをとらえる、面白がる視点は機能を持った「空き家」を見出す視点にもなっている。 134 空家のくち						